

八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に対する意見聴取の状況

1. 意見のポイント

(1) 第 2 回 八戸市まち・ひと・しごと創生懇談会（平成 27 年 8 月 7 日開催）

- 個別施策の記載をより具体的なものとする事によるアピール度等の向上
- 市民等の参画による進行管理の実施
- 人材育成の視点に立った施策の推進
- 施策間で連携した事業の実施
- 意欲ある高齢者の就労の促進
- 若年者の早期離職防止対策の推進
- 八戸ならではの先鋭的な移住施策の推進
- 若者、子ども、高齢者の交流の促進
- 市民意見を採り入れた八戸らしいアートのまちづくりの推進
- 海外メディアを通じた海外観光客への情報発信
- 八戸三社大祭の保護対策の推進
- 乳幼児等医療費助成の拡充
- 元気なシニア層を対象とした施策の推進

(2) グループヒアリング（平成 27 年 8 月下旬実施）

① 地域団体（八戸市連合町内会連絡協議会 役員）

- 親から子へのUターン情報の発信
- 各地域における未婚者対策の必要性
- 市と町内会が連携した、結婚支援に関する取組の推進
- 町内会における信頼し合える雰囲気づくりの必要性
- 町内会加入率向上に向けた地道な取組の推進

② 子育て世代（こどもはっち利用者）

- 学童保育の充実
- 乳幼児等医療費助成の拡充
- 出産に関する手続きのワンストップ化
- 子ども・子育て支援新制度の導入に伴う利用状況等の検証
- こどもはっち利用者の駐車料金割引制度の導入
- 子育て世代が利用する店の中心市街地への立地促進
- ベビーカー利用者等に配慮した道路段差の解消
- バスカード導入による市営バスの利便性向上

③ 起業支援団体（アントレプレナー情報ステーション事務局）

- 事業承継と創業に関する窓口の一本化
- より専門性の高い相談員の配置など、相談体制の強化
- 後継者に悩む事業者と創業希望者のマッチングの実施
- 創業希望者をはじめ多くの市民が気軽に利用できる施設へのリニューアル
- 企業誘致と関連産業の創業に関する一体的な取組の推進
- 本格的なインキュベーション施設の整備
- 人口減少下における企業の流出防止対策の推進

④ 学生（八戸工業大学、八戸学院大学、八戸工業高等専門学校の学生）

- 誘致企業等の説明会開催による学生への地元企業のPR
- 女性の採用に積極的な企業の認定制度の導入
- 立地企業や観光情報などを教える地域学講座の実施
- 八戸出身の画家が活躍できるような美術館の整備
- インターネット等を活用した、海外への観光情報の発信

⑤ 市民活動団体（市民活動サポートセンター登録の結婚支援・子育て支援団体）

- 移住希望者に対する当市の住みやすさの情報発信
- 様々な活動を通じた男女の出会いの場の提供
- 家庭教育における結婚観の醸成
- 働く女性が産休を取りやすい環境の整備や、男性の家事・育児への主体的参画
- 子育てサロンの土日開催による、働く母親の交流機会の創出
- 子育てサロンの運営に対する財政支援の強化や人材の育成・確保
- 子育て施策への重点的な予算配分

2. 意見概要

(1) 第2回 八戸市まち・ひと・しごと創生懇談会

日 時：平成27年8月7日（金）15：15～16：45

場 所：八戸グランドホテル 翔鶴

出席者：産業界・教育機関・金融機関・労働団体・メディア・市民等の代表 11名

【総論】

- 施策名と個別施策名が同じ内容となっているものがあり、より具体的な内容を記述しアピール度や新しさを高める工夫をするべきである。
- 各事業の問題点をいま一度洗い出しよくするためにどうしていくのかを見せていきながら、市民等の参画のもとで進行管理されたい。
- 自ら考え生み出していく力やビジネスを起こしていく力を養うことなど、育て生み出していく視点に立った施策をもう少し強く打ち出すほうが特徴的なものとなるし、長期的に定住人口・交流人口の増加につながると考える。
- 施策間で連携した事業がもっとあってもいいのではないか。

【基本目標1 多様な就業機会を創出する】

- 人材不足を背景に定年の廃止や元気な高齢者の採用などにアドバンテージを与えるなど、意欲ある人材を働けるようにする施策を検討願う。
- 本県における新規高卒者の就職後3年以内の離職率は全国平均に比べ高い状況にあるため、離職者防止対策を盛り込むべきである。

【基本目標2 新しい人の流れをつくる】

- 移住については都市間競争となるため、子育てにおける教育や医療費に敏感な女性を意識した情報発信に取り組むことが重要である。
- 当市に集積するITテレマーケティング関連企業の仕事と親和性の高いシングルマザーのマッチングなど、八戸ならではの先鋭的な施策に取り組まれない。子どもを預けて働きやすい環境として、企業内保育所を整備することなどがヒントとなるのではないか。
- 学生が高齢者宅の除雪ボランティアを行うなどの例もあるが、若者と高齢者、若者と子ども、子どもと高齢者の交流を図ることで様々な効果が考えられることから、検討いただきたい。
- アートのまちづくりは効果が目に見えづらいことやわかりづらい部分があることから、市民意見を採り入れ八戸らしい取組となるよう検討願う。
- 外国人観光客が参考とする観光ガイドブックなど海外メディアへの露出度を高めることについて検討されたい。
- 八戸三社大祭を市の宝として存続させていくため、その保護対策について観光課と社会教育課が連携して取り組まれない。

【基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

- 子育て世代に聴き取り調査をすると、必ず医療費の問題が挙げられる。
- 医療費の無償化など、思い切った施策が必要ではないか。

【基本目標4 住み続けたいまちをかたちづくる】

- 医療や介護だけでなく、健常時のシニア層を対象とした施策を盛り込むべきである。

(2) グループヒアリング

① 地域団体（八戸市連合町内会連絡協議会 役員）

日 時：平成 27 年 8 月 24 日（月）13：45 ～ 15：15

場 所：議会第二委員会室

出席者：八戸市連合町内会連絡協議会 会長・副会長 3 名

テーマ：人口減少・少子高齢社会にあつて、地域コミュニティの活性化に必要なこと

【基本目標 2 新しい人の流れをつくる】

- 東京圏等で働く当市出身者について U ターンの促進を図るため、当市に残る親からの情報発信が有効であるならば、町内会・自治会として協力できる部分があると思う。

【基本目標 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

- 未婚者が多いことは各町内会・自治会共通の課題であり、将来的な集落の消滅の可能性や地域の見守り体制など、様々な問題につながると考える。
- 結婚支援に向けては、未婚者同士が会える機会を設けることが重要と考える。
- 結婚支援は、町内会・自治会加入率の向上や地域防災に加え、町内会・自治会が協力できることのひとつであり、賛同が得られる町内会・自治会からだけでも取組を始めるべきである。

【基本目標 4 住み続けたいまちをかたちづくる】

- 小さい町内会・自治会ほど活動が厳しくなっている中、交付金制度が見直しをされたことは大変ありがたいことだと思っている。
- 市と町内会・自治会が連携して加入促進に力を入れた結果、加入率低下に歯止めがかかっていると感じる。
- 町内会・自治会は地域の安全・安心を支えるものであり、連携を深め信頼し合える雰囲気づくりをしていくことが重要である。
- 町内会・自治会の活性化に向けては、活動をやめた時点で疲弊していくと考えられるため、地道な取組を続けていく必要がある。

② 子育て世代（こどもはっち利用者）

日 時：平成 27 年 8 月 28 日（金）11：00 ～ 12：00

場 所：八戸ポータルミュージアム レジデンス A

出席者：こどもはっち利用者 5 名

テーマ：出産・子育てにおける問題点と子どもを産み育てるために必要なこと

【基本目標 2 新しい人の流れをつくる】

- 八戸三社大祭や八戸えんぶりに県外の友人を招きたいが、平日開催のため日程の都合が難しい。開催日程の変更など時代に合わせて祭りも変わっていてもいいのではないか。

【基本目標 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

- 子育て世代の就労環境について、短時間労働を認める企業がもっと増えてくれるとよい。
- 働く子育て世代にとっては、小学校入学後の学童保育が手薄と感じる。また、幼稚園・保育園の卒園後、小学校入学後までの数日間が保育の空白となっている。
- これまでに住んだ他自治体に比べ当市の乳幼児等医療費助成の基準が厳しい。せめて小学生までを無償化し、所得制限についても撤廃してほしい。
- 待機児童は無いものの、希望する保育園への入園ができない状況にある。
- 出産に関し、複数課にまたがっている手続窓口をワンストップ化してほしい。
- 子ども・子育て支援新制度の導入に伴い現場は混乱していると聞くが、新制度によって利用状況など何がどう変わったか、振り返ることが必要ではないか。
- こどもはっちの一回の利用につき 3～4 時間程度滞在するが、駐車場料金が高くなるため駐車料金の割引制度があれば助かる。
- 中心市街地に若い子育て世代が利用する店がほしい。ドラッグストアやスーパーなど、まちなかですべての用事を済ませられたらよい。また、座敷スペースを設けるなど子供連れで利用しやすい飲食店が増えてほしい。
- 八戸公園の屋内施設にエアコンが設置されておらず、暑い日は子供を外でも中でも遊ばせられなかった。

【基本目標 4 住み続けたいまちをかたちづくる】

- ベビーカーを利用していると、道路の段差が気になる。
- 市営バスの利便性向上のため、バスカードを利用できるようになるとよい。

③ 起業支援団体（アントレプレナー情報ステーション事務局）

日 時：平成 27 年 8 月 31 日（月）9：45 ～ 10：30

場 所：八戸商工会議所 2 階

出席者：アントレプレナー情報ステーション事務局 2 名

テーマ：起業の際の問題点と地方における新たなしごとの創出のために必要なこと

【基本目標 1 多様な就業機会を創出する】

- アントレプレナー情報ステーションは、市からの委託により予約制で週 1 回の相談日を設けて、八戸商工会議所職員が創業相談を受け付けている。なお、相談の予約状況は、常時定員に達してはいないものの、予約なしでの訪問や相談日以外に商工会議所へ来所するケースも多い。
- 相談件数は青森市・弘前市より少ないが、これは同施設が他の 2 市に比べてハード面で充実していないことや認知度不足等によるものと考えられる。
- 今後の相談体制については、市担当課と調整を図り次年度以降のリニューアルを検討していくこととし、事業承継と創業に関する窓口を一本化したいと考えている。また、資格等を持つ専門性の高い相談員を配置するなど相談体制の強化を図るとともに、後継者に悩む事業者と創業希望者のマッチングなどにより、事業所数の減少を抑えていきたい。
- リニューアルについては、カフェスペースを併設したコワーキングスペース（起業家同士が共有する事務スペース）を整備するなど、創業希望者をはじめとした多くの市民が気軽に利用できるような施設が望ましいと考える。
- 事業としては、ゼミや座談会の開催などを通じて起業家や創業希望者等のネットワークづくりを図りたいと考える。また、創業リスクを減らすため、アフターフォローや起業家同士の交流機会を創出したいと考える。
- 今後、積極的な事業展開を図っていくためには、市とのさらなる連携体制の構築が必要と考える。
- 創業時は、資金面が大きな問題となるため、平成 27 年度から市による「創業融資利子補給制度」の活用や日本政策金融公庫とも連携しながら支援している。
- 創業の際、国の支援制度のメニューがその時々で異なるため、市では中心商店街空き店舗・空き床解消事業補助金などにより支援しているが、他県でも独自の補助金や助成金制度により支援している例があるので取組の参考となると考えられる。
- 誘致企業の業種によって、関連産業の創業などの企業集積が進むこともあるため、創業と企業誘致を一体的に取り組むことも重要と考える。
- 他自治体では、起業家を支援する取組として研究開発施設と低額で借用できるオフィスを併設した施設が充実している例もある。当市においても八戸ニューポートのような施設はあるが、将来的には本格的なインキュベーション施設の整備も視野に入れることも必要と考える。

- 人口減少は、労働力不足を引き起こし結果として企業の海外進出を助長することとなるが、市でも、製造業、建設業等において労働力不足が問題となっているため、人・企業が流出しないようにする必要がある。

④ 学生（八戸工業大学、八戸学院大学、八戸工業高等専門学校の学生）

日 時：平成 27 年 8 月 31 日（月）16：00 ～ 17：30

場 所：市庁別館 2 階会議室 B

出席者：市内高等教育機関の学生 12 名

（八戸工業大学 4 名、八戸学院大学 4 名、八戸工業高等専門学校 4 名）

テーマ：若者の人口流出の要因と地元に着定するために必要なこと

【基本目標 1 多様な就業機会を創出する】

- 結婚や出産に理解を示し女性の採用に積極的な企業を、市として認定する制度の導入など検討してはどうか。

【基本目標 2 新しい人の流れをつくる】

- 自分の専攻を活かすためにも、首都圏にある大企業の本社勤務を志望しており、市内・県内の就職は検討していない。
- 通勤に関して公共交通の利便性が高く、また職種の選択肢も広い首都圏において就職したいと考えている。
- 進学により八戸に住んでおり、卒業後の就職先については、愛着のある出身地か公共交通や都市機能が整備されている首都圏がよいと思っている。
- 自分が挑戦できる環境があれば八戸でも首都圏でもどちらでもよく、就職場所について特にこだわりはない。
- 八戸は生活環境の利便性もよく過ごしやすいつ感じているので、市内に就職したいと考えている。
- 就職では県外を希望しているが、自分に子どもが生まれ育児のことを考えると、いずれは八戸に戻ってくることも検討したい。
- 当市にどのような誘致企業があるのかを知らない学生が多い。認知度を高めるため、誘致企業の説明会を開催してみてもどうか。早い段階で市内の企業情報が得られれば、地元への就職者数が増えると思う。
- 当市には世界的に誇れる製品や技術を有する企業も立地しており、そうしたことを積極的に PR していくことで、将来を担う人材育成につながると思う。
- 進学により市外から来た学生は八戸のことを知らないことが多いため、市職員が市内の企業や観光情報などを教える地域学講座を実施してはどうか。
- アートのまちづくりの推進の中で美術館を整備していくとのことだが、八戸出身の有名な画家もいるので、そういった人が活躍できる機能をもった施設にしてほしい。また、青森県立美術館のように自然に溶け込むよう郊外に整備してほしい。
- 一般的に、駅前がまちの顔という印象があるため、初めて八戸駅に来たとき小さいまちだと感じた。実際は中心市街地が離れたところにあるが、市外の人からすると分かりにくく誤った印象を与える可能性がある。

- 八戸には美味しい海の幸をはじめ有望な観光資源があると思うが、そのことを知らない人が多いので情報発信を強化していくべきだと思う。
- 今春開催したクールジャパンセミナーに招いたアジアの学生の話では、日本の観光は世界にも有名だが、それは東京や京都などのことで、八戸市はもちろん青森県のこと知らない人が多いとのことだった。海外に目を向けた取組が必要であると思う。
- 中国からの旅行者に八戸を訪れた理由を聞いたところ、インターネットで情報を入手したとのことだった。海外からの観光客を取り込むためにはインターネット等を活用した情報発信が有効だと思う。

⑤ 市民活動団体（市民活動サポートセンター登録の結婚支援・子育て支援団体）

日 時：平成 27 年 8 月 31 日（月）19：00 ～ 20：30

場 所：市庁別館 2 階会議室 B

出席者：結婚支援団体 2 名、子育て支援団体 2 名

テーマ：結婚・出産・子育てにおける問題点と子どもを産み育てるために必要なこと

【基本目標 2 新しい人の流れをつくる】

- 転勤族の方の多くは、八戸は雪も少なく病院等の施設も充実していて、大都市よりも住みやすいまちであると評価している。八戸への移住や若い世代の定住を促進するため、こうした魅力を発信していく必要がある。

【基本目標 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

- 結婚支援団体として昔の仲人的な世話人の集まりとして活動しており、パーティー型の出会いの場の提供や結婚に対する意識の啓発にも取り組んでいるが、最近は何のパーティーでも女性参加者が減少傾向にあると感じる。
- 根城公民館で開講している青年学級では、未婚の青年男女を対象に、年間を通して料理教室や式場見学をはじめ様々な講座などを開催している。婚活パーティーとなると参加のハードルが高いように感じられるが、ここでは学習の機会を提供することで、参加者が様々な活動を通じてお互いに人柄を知ることができ、その結果として付き合いが始まることもあることから、取組のひとつの参考となると考えられる。
- 価値観の多様化が進み、結婚についても恋愛の延長と捉える人や、打算的な考えに立つ人も増えてきていると感じる。相手を尊重すること、家庭を築くこと、命をつなぐこと、親を守ることなど、家庭における教育の中から結婚観を養っていくなど、地道な取組も必要だと考える。
- 結婚の問題を含め、すべてを自分で決め誰かに相談するという習慣のない人が増えている。他人の知恵を借りることや道を教える人の存在が必要である。
- 出産については、働く女性が産休を取りやすい環境を整備するとともに、男性も家事・育児に主体的に参加する必要がある。
- 子育てサロンは、就学前のお子さんとその保護者を対象に、平日の日中に開催しており、母親同士の交流や子育てに関する悩みを相談できる場でもある。一方、働く母親は参加できていないとも考えられるため、土日における開催も検討していく必要があると考える。
- 子育てサロンの運営はボランティアで行っており、財政的に運営が厳しい状況にあり、市からのさらなる支援が必要である。また、継続的に運営していくための人材の育成や確保が必要である。
- 今後のまち・ひと・しごと創生の取組にあたっては、市において子育て施策への重点的な予算配分が必要ではないか。